

「目を覚まし、感謝を込め、祈れ」

目を覚まして感謝を込め、ひたすら祈りなさい。
同時にわたしたちのためにも祈ってください。
(コロサイ 4 の 2-3)

Keep persisting in prayer, being watchful and thankful.

この短い言葉のなかに、キリスト者の生きる姿が示されている。それは、すべてを神が愛をもって私たちのためになして下さっていると信じていくとき、実際にさまざまの予想していなかった恵みを受け、そこから感謝が自然に伴う祈りとなる。

そのためには、心の目、魂の目をいつも覚ましている必要がある。居眠り運転が危険であること、そしてその経験は多くのドライバーが持っているだろう。私自身ももう 20 年以上も前に、疲れと睡眠不足のためにもう少しで命を落としかねない危険な目にあったことを思い出す。

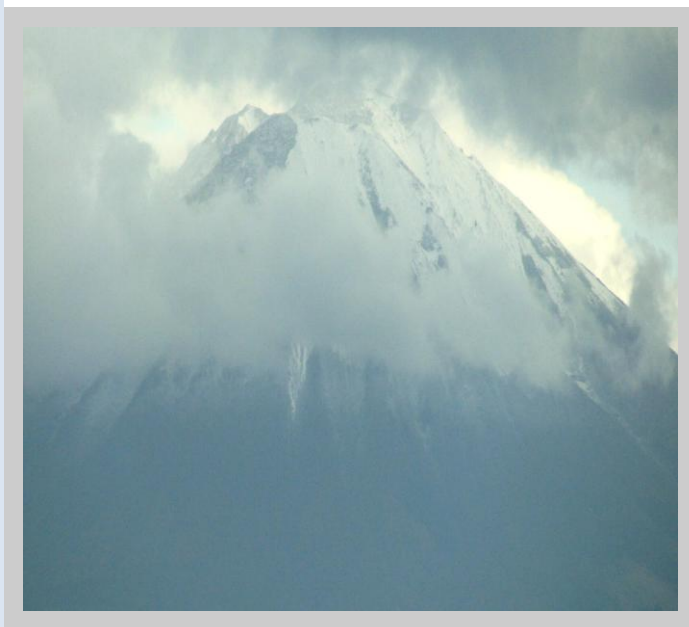
しかし、それはこの人生においても同様である。魂が眠ったまま、この人生を歩いていくことは危険なことである。悪の誘惑に簡単に引き込まれたり、闇や、泥沼に落ち込んだり、悪の力にぶつかって魂を壊されたりするからである。

目を覚ましていなさい、それは主イエスも繰り返し言われた。心の目を覚ましているために不可欠なことは、絶えず祈ること、祈りをやめないことである。ここで「ひたすら祈れ」と訳されている原語(*)は、祈りにおいて力を注ぐ、やめないで継続するということである。

だれでも何らかの問題、苦しみや悩みを持っているから、祈りということは程度の多少はあれ、だれでも祈りに似た気持ちは持っているだろう。しかし、何ごとを祈るときにも、つねに心からの感謝をもって祈りを続ける、ということは、聖なる霊の助けがなければ困難であろう。言い換えれば、どんなときにも感謝とともに祈れるという人は、聖霊の恵みを受けていると言えるだろう。聖霊は、私たちがどう祈っていいかわからないような困難な状況でも、深い共感をもって助けて下さると記されている。(ローマ信徒への手紙 8 の 26)

「私たちのためにも祈ってください」これは、祈りとは互いに祈り合うのが正しいあり方であることを示している。キリスト教の 2000 年の歴史において最大のはたらきをした弟子、ゆたかに聖霊を与えられ、主イエスとの直接の深い交わりをも与えられていた使徒パウロは、このように、各地の信徒からの祈りをも大切なものとしていた。二人三人主の名によって集まるところに、私はいる、と主イエスは約束された。それは祈りにおいても同様である。二人三人ともに心を合わせて祈り合うときに、主はその祈りのただ中にいて下さって、双方に力と助けを与えて下さるからである。

(*)プロスカルテレオー pros-kartereo これは、方向を意味する前置詞 プロス pros と力、強さを意味する カルトス kartos (kratos と同じ意味)という語から派生した動詞である。



大山(だいせん 標高 ,1729m)は、昔から、日本の4名山の内の一つとされてきました。この写真は、大山の登山口に至る道からの撮影したものです。

去る11月16日松江市から、鳥取市のキリスト教の集会に向かう途中、予定になかったことでしたが、雪をいただいた山頂付近が、高速道路走行中にも、雲間から見え隠れしていたので、少ない時間でしたが登山口まで行き、そこから、若き日に歩いた道を二号目付近までたどりつつ、付近の植物なども調べる機会が与えられました。

私にとっては大山は忘れることのできない強い印象を残した山の一つで、40数年前に蒜山を目指して大山を縦走したことは今もはっきりと心に刻まれています。

多くのすぐれた山容を持つ山々があるにもかかわらず、とくに4つの名高い山としてあげられているのは、遠くからの山容もすばらしく、近くにきても、また登ってもその力強い独立した峰々はその山に近づく人の心を引きつけ、その崇高ともいえる美しさによって、人々の心が清められ、またうるおされるからだと思われまます。

主イエスも、生涯の最後が近づいたころ、高い山に数人の弟子たちを伴って登り、そこで神の姿のように変容されたことが聖書にも記されています。(マタイ福音書 17 章)これは、やはり高い山には独特の神の国に近い雰囲気があるから、その清められた場において弟子たちに特別なことを示されたのだと考えられます。私たちはだれでもそのような高い山に登れないのですが、神の聖なる霊を受けて、平地での日常生活においても、そうした高山の空気に接するような恵みを与えられたいと願います。(文、写真とも T.YOSHIMURA)